2. 各対象施設の個別計画

○亀山西小学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況はみられないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、予防改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

それぞれの建物は、建築後、約 20 年が経過しており、躯体に関しては目立った傷み等はみられないものの、「009-1 校舎」の屋根・屋上、「009-2 校舎」の内部仕上げの項目でC（広範囲に劣化）評価となっているとおり、保健室、職員室、図書室、ランチルームなどの雨漏り、外壁の汚れ、ベランダの木部や被覆等の傷み、バリアフリーとなっている 1 階床への雨水の侵入など多くの問題が発生しており、適切に改修し劣化を予防することが必要となっています。

「009-1 校舎、給食室」は令和 8（2026）年度に建築後 20 年が経過するなど、他の建物についても同年度においておおよそ 20 年に達することから、一体的に予防改修として屋上、屋根、壁等の改修を行い、良好な状態を維持します。

表 1 亀山西小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕･改修･改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕･改修･改築推奨計画										
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数 地上	階数 地下	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	条件（シナリオシート参照） 使用目標年数	長寿命化改修の実施築年	改修サイクル	10年後 2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
1	校舎	009-1	RC	3	-	3,455	2004	H16	21	C	B	B	B	B	72	80	40	20	予										345,500
2	校舎	009-2	RC	3	-	3,306	2005	H17	20	A	B	C	A	B	67	80	40	20	予										330,600
3	屋内運動場	011	RC	2	-	1,388	2005	H17	20	B	B	B	A	B	78	80	40	20	予										138,800
4	給食室	009-1	RC	1	-	225	2004	H16	21	A	A	B	A	A	91	80	40	20	予										22,500

計 837,400 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新･改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共公益施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 2 亀山西小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○亀山東小学校の個別計画

■ 計画期間(令和８(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況は見られないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修又は予防改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

事業時期については、建設後 50 年前後となる「001-1 校舎」や「001-2 校舎」、「005-2 校舎」は、雨漏りが生じていたり、内外壁に目立った亀裂がみられることから、C（広範囲に劣化）評価となっており、早期に改修する必要があると判断されます。「005-1 校舎」については、C評価は見受けられないものの、内外壁の亀裂、破損といった状況が見受けられます。このような状況から、「001-1 校舎」から「005-2 校舎」までの校舎は、建築年度が比較的近いことから、各校舎を一体的に考え、計画当初となる 2026 年度、2027 年度の 2 箇年をかけて長寿命化改修を行うこととします。

「010 屋内運動場」については、現地調査の段階では、多くの雨漏りが発生しており、屋根・屋上の項目でC（広範囲に劣化）評価となっていますが、令和 5（2023）年度の屋根の全面改修に伴い、現在雨漏りは発生していません。しかしながら、築年数及び他項目の評価結果を勘案し、校舎とともに、令和 8（2026）年度、令和 9（2027）年度の 2 箇年をかけて長寿命化改修を行うこととします。

建設後 38 年の「015 給食室」については、雨漏りなどの問題が生じており、築年数も長寿命化改修の対象となる 40 年に近いことから、校舎、屋内運動場の改修と一体的に長寿命化改修を行うこととします。

建設後 18 年の「018 プール付属屋」、建設後 12 年の「021 校舎」については、修繕周期に従い、また劣化状況評価の状況を勘案し、予防改修をそれぞれ令和 9(2027)年度、令和 15（2033）年度に行い、継続して利用することとします。

表 3 亀山東小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画									
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数		延床面積（㎡）	建築年度		築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	条件（シナリオシート参照）			10年後									10年間のコスト（千円）
				地上	地下		西暦	和暦								使用年数	目標施築年	長寿命化改修の実	サイクル改修	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
5	校舎	001-1	RC	3	-	873	1978	S53	47	B	B	C	A	A	68	80	40	20	長	長									176,346
6	校舎	001-2	RC	2	-	1,048	1978	S53	47	B	C	C	A	B	55	80	40	20	長	長									230,560
7	校舎	005-1	RC	2	-	1,387	1972	S47	53	B	B	B	A	A	81	80	40	20	長	長									280,174
8	校舎	005-2	RC	2	-	514	1975	S50	50	B	B	C	A	A	68	80	40	20	長	長									103,828
9	屋内運動場	010	RC	2	-	976	1973	S48	52	C	B	B	A	B	75	80	40	20	長	長									214,720
10	給食室	015	RC	2	-	134	1987	S62	38	C	B	B	A	A	78	80	40	20	長	長									27,068
11	プール付属屋	018	S	1	-	56	2007	H19	18	A	B	A	A	A	93	80	40	20		予									5,600
12	校舎	021	S	2	-	438	2013	H25	12	A	B	B	A	A	84	80	40	20									予		43,800

計 1,082,096 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、「001-1 校舎」から「005-2 校舎」までの校舎及び「015 給食室」は、令和 35（2053）年以降に耐用年数の 80 年を迎えることから、令和 28（2046）年度以降には大規模修繕は行わず、劣化状況を見つつ基本的には建替えを行うこととします。この際には、それぞれの校舎の建設年度が比較的近いため、一つの学校施設の校舎として一体的に検討することとし、その時点の児童数の将来予測等を勘案しながら、総合的な校舎等の規模を設定するものとします。また、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設との合築の可能性についても検討します。

なお、児童数減少等により建替えまでの間に空き教室等が生じた場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

建替え以外の校舎等については、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

表 4 亀山東小学校の今後（40 年間）の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○昼生小学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況は見られないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

全ての建物が平成 2 年に建設されており、建築後、約 35 年を経過していますが、建物の状態は良好であり、目立った損傷等は見られない状況です。

よって、修繕周期に従い、建設後 40 年となる令和 11（2029）年度、令和 12（2030）年度に長寿命化改修を行うこととします。

表 5 昼生小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数		延床面積（㎡）	建築年度		築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	条件（シナリオシート参照）			10年後										10年間のコスト（千円）
				地上	地下		西暦	和暦								使用目標年数	長寿命化改修の実施築年	サイクル改修	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
13	校舎	008	RC	2	-	2,634	1989	H元	36	A	B	B	A	A	84	80	40	20				長	長						492,558
14	屋内運動場	009	RC	1	-	797	1989	H元	36	A	B	B	A	A	84	80	40	20				長	長						149,039
15	給食室	010	RC	1	-	89	1989	H元	36	A	B	B	A	A	84	80	40	20				長	長						16,643
16	プール付属屋	012	S	1	-	130	1990	H2	35	A	B	A	A	A	93	80	40	20				長	長						19,110

計 677,350 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例		
	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、修繕周期に従い、予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少や複式学級の増等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 6 昼生小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○川崎小学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況は見られないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

「009 屋内運動場」については、修繕周期に基づき、建設後 40 年となる令和 9（2027）年度、令和 10（2028）年度に長寿命化改修を行い、屋根、内外壁の改修、老朽化した設備の更新、バリアフリー化等を行うものとします。

その他の校舎等は建設後、約 10 年であり比較的新しい建物と言えます。このような中で、建物の状態は概ね良好ですが、「020 給食室、プール」で塗装の剥がれや比較的大きなクラックが見られ、また、校舎 1 階床はバリアフリー化されている関係で外部から雨水が侵入するなどの問題が発生しています。これらの対策の方向性については、大規模改修は行わず、外壁の改修、雨水侵入対策と床の改修等により改善を行っていくこととします。

表 7 川崎小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数 地上	階数 地下	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	条件（シナリオシート参照） 使用目標年数	長寿命化改修の実施年	サイクル改修	10年後 2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
17	屋内運動場	009	RC	1	-	919	1987	S62	38	B	B	B	A	A	81	80	40	20		長	長								185,638
18	給食室、プール	020	RC	2	-	479	2017	H29	8	A	B	B	A	A	84	80	40	20											0
19	校舎	021	RC	2	-	2,180	2017	H29	8	A	B	A	A	A	93	80	40	20											0
20	校舎	022	RC	2	-	1,496	2017	H29	8	A	B	B	A	A	84	80	40	20											0
21	校舎	023	RC	2	-	3,387	2018	H30	7	A	B	B	A	A	84	80	40	20											0

計 185,638 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例	劣化状況評価	A：概ね良好　B：部分的に劣化　C：広範囲に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修　予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、「009 屋内運動場」については、修繕周期に従い、予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

上記以外の校舎等については、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 8 川崎小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○野登小学校の個別計画

■ 計画期間(令和８(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況は見られないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

平成 3（1991）年度建築の「009 校舎」、平成 14（2002）年建設の「010 会議室」を除き、それぞれの建物は建設後、約 45 年が経過しており、この間に改修はなされているものの、「002-1 校舎」、「002-2 校舎」の外壁と内部仕上げや「003 給食室」の屋根・屋上がＣ（広範囲に劣化）評価となっている等、壁面のクラック、軽微な雨漏り、外階段の錆び付きなどが見られ、改修が必要となっています。

それらの建物については、既に長寿命化改修時期の建設後 40 年を超えているため、本来なら令和 8（2026）年度からの改修を実施するのが適当と考えられます。しかしながら、劣化状況調査の結果、上記の改修内容を含め、直ちに改修が必要と考えられる損傷等が見られないことから、他の学校改修との優先度を勘案し令和 10（2028）年度、令和 11（2029）年度に長寿命化改修を行うこととします。屋上・屋根、内外壁の改修、老朽化した設備等の更新を行い、良好な状態を回復したうえで、継続的に利用するものとします。

「009 校舎」については、修繕周期に従い、建設後 40 年となる令和 13（2031）年度、令和 14（2032）年度に長寿命化改修を行うこととします。

「010 会議室」については、現状特に問題がないため、計画期間内の予防改修等は行わないこととします。

表 9 野登小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕･改修･改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
				階数			建築年度									条件（シナリオシート参照）			10年後										
通し番号	建物名	棟番号	構造	地上	地下	延床面積（㎡）	西暦	和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	使用目標年数	長寿命化改修の実施年	サイクル改修	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
22	屋内運動場	001	RC	1	-	533	1979	S54	46	B	B	B	A	A	81	80	40	20			長	長							107,666
23	校舎	002-1	RC	2	-	1,280	1977	S52	48	B	C	C	A	A	58	80	40	20			長	長							258,560
24	校舎	002-2	RC	2	-	665	1979	S54	46	B	C	C	A	A	58	80	40	20			長	長							134,330
25	給食室	003	S	1	-	111	1977	S52	48	C	B	B	A	A	78	80	40	20			長	長							22,422
26	プール付属屋	005	S	1	-	37	1978	S53	47	B	B	B	A	A	81	80	40	20			長	長							8,880
27	校舎	009	S	1	-	81	1991	H3	34	B	B	B	A	A	81	80	40	20						長	長				16,362
28	会議室	010	S	1	-	38	2002	H14	23	B	B	B	A	A	81	80	40	20											0

計 548,220 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例		
	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的に「009 校舎」、「010 会議室」以外の建物については、修繕周期に従い、予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

「009 校舎」、「010 会議室」については、同様に修繕周期に従い、それぞれ長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少や複式学級の増等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 10 野登小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○白川小学校の個別計画

■ 計画期間(令和８(2026)年度～令和 17 年(2035)年度)内の計画

＊木造の教室棟の校舎は国の登録文化財であるため、長寿命化施設の対象から除外しています。他の文化財建物の管理手法を参考に継続利用していく方向で検討します。

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに「006 便所」の築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎えることとなります。改修がされており、劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況は見られない状態に保たれていますが、躯体の劣化は進んでいると考えられるため令和 15（2033）年度に建替えるものとします。

それ以外の建物については、建設後、約 30 年～約 45 年が経過していますが、概ね良好な状態が保たれているものの、現状、「009 プール附属室」、「011 便所」、「013 校舎」の理科室などの一部で電気を有していないなどの不備、また全体的な建物の劣化、老朽化がみられＣ（広範囲に劣化）評価となっている項目もあります。

このような状況から、建設後 40 年を超えている「008 屋内運動場」、「009 プール附属室」、「020 プール（便所）」については、建設年度及び劣化状況評価の結果を踏まえ、令和 8（2026）年度、令和 9（2027）年度にかけて長寿命化改修を行うこととします。

また、「011 便所」から「016 校舎」までの建物については、修繕周期に従い、建設後 40 年となる時期に長寿命化改修が必要となりますが、おおよそ建設年度が近いことから、個別に対応していくことは非効率となるため、令和 11（2029）年度、令和 12（2030）年度の 2 箇年で一括して長寿命化改修を行うこととします。

表 11 白川小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数		延床面積(㎡)	建築年度		築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)	条件(シナリオシート参照)			10年後										10年間のコスト(千円)
				地上	地下		西暦	和暦								使用年数	目標施築年	長寿命化改修のサイクル	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	
31	便所	006	W	1	-	27	1952	S27	73	A	B	B	A	A	84	80	40	20								建			10,800
32	屋内運動場	008	RC	1	-	535	1978	S53	47	A	B	B	A	A	84	80	40	20	長	長									100,045
33	プール付属屋	009	S	1	-	17	1983	S58	42	B	B	B	C	A	73	80	40	20	長	長									3,774
34	便所	011	S	1	-	15	1988	S63	37	B	B	B	A	A	81	80	40	20				長	長						3,030
35	校舎	013	S	1	-	81	1990	H2	35	B	B	B	A	A	81	80	40	20				長	長						19,440
36	給食室	014	S	1	-	89	1993	H5	32	B	B	B	A	A	81	80	40	20				長	長						21,360
37	校舎	015	S	1	-	16	1991	H3	34	A	C	B	A	A	74	80	40	20				長	長						3,840
38	校舎	016	S	1	-	16	1994	H6	31	B	B	B	A	A	81	80	40	20				長	長						3,840
39	プール(便所)	020	S	1	-	7	1983	S58	42	C	C	B	A	A	68	80	40	20	長	長									1,414

計 167,543 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
(本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。)

凡例		
	劣化状況評価	A :概ね良好　C :広範囲に劣化 B :部分的に劣化　D :早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建 :新・改築　廃 :廃止　長 :長寿命化改修 予 :予防改修　部 :部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、「006 便所」については、修繕周期に従い、予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

それ以外の建物の「008 屋内運動場」等については、修繕周期に従い、予防改修を行い、耐用年数である約 80 年まで良好な状態を保ちつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少や複式学級の増加等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

また、建設後 80 年経過し建替えが必要と判断された場合には、その時点での状況によって、単独棟となっているプール付属屋や教室等が不要となる場合があるため、一部の建物において耐用年数を経過しない段階での用途廃止、取り壊し等も視野に入れつつ、一つの学校施設の校舎として総合的な校舎等の規模を設定し、改修等を行うこととします。

表 12 白川小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○神辺小学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17 年(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況はみられないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修又は部分改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

「007 屋内運動場」が建設後、約 45 年、それ以外の建物が建設後、約 25 年経過しており、修繕周期からみると改修が必要な時期を迎えていますが、建物の状態は良好であることと現在の施設状況や他校の改修状況を踏まえ、令和 16（2034）年度、令和 17（2035）年度に長寿命化改修を行うものとします。また、それ以外の建物については、計画期間内には予防改修を実施せず部位改修を行いつつ利用を継続するものとします。

なお、部位改修としては、C（広範囲に劣化）評価となっている「017 プール付属室」についての落ち葉対策を実施するとともに、屋内階段手摺の改修、空調の改善等などが挙げられます。

表 13 神辺小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数 地上	階数 地下	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	条件（シナリオシート参照） 使用年数目標	長寿命化改修の実施築年	改修サイクル	10年後 2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
40	屋内運動場	007	RC	1	-	680	1980	S55	45	A	B	B	A	A	84	80	40	20									長	長	127,160
41	校舎	016	RC	2	-	3,300	1997	H9	28	B	B	B	A	A	81	80	40	20											0
42	プール付属屋	017	RC	1	-	97	1997	H9	28	C	B	A	A	A	88	80	40	20	部										38,800
43	給食室	016	RC	1	-	124	1997	H9	28	A	B	B	A	B	81	80	40	20											0

計 165,960 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、「007 屋内運動場」以外の建物については、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

「007 屋内運動場」については、耐用年数は令和 43（2061）年で築後 80 年を迎えることとなりますが、現在の状態が良好であることを踏まえて、長寿命化改修を令和 16（2034）年度、令和 17（2035）に遅らせていることから、その期間に準じ、令和 36（2054）年度に予防改修を行い、令和 56（2074）年度まで利用を継続することを目指すものとします。ただし、計画の見直し時点で、利用継続が困難と判断される場合には計画を見直す場合もあります。

また、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 14 神辺小学校の今後（40 年間）の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

〇井田川小学校の個別計画

■ 計画期間(令和８(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況はみられないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修又は予防改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

また、当校の児童数は、最近では増加傾向にあり、校舎等を増築して児童数増加に伴う対応を行ったところですが、将来長期的には減少傾向が見込まれており、その状況を考慮した施設の維持・更新が必要となります。

「001-1 校舎」、「001-2 校舎」、「001-3 校舎」「001-4 校舎」「001-5 校舎」、「003 屋内運動場」「004-1 給食室」、「004-2 給食室」、「010 校舎」、「012-1 給食休憩室」は、建設後、30 年から 45 年程度であり、修繕周期からみると計画期間内に長寿命化改修が必要となりますが、外部手すりなどに錆がみられる以外は大きな損傷等はなく、比較的に良好な状態にあります。

「011 校舎」「012-2 給食室便所」「013 校舎」「014 校舎」については、平成 20（2008）年度以降に建設され、建物は良好な状態にあります。

このような状況から、修繕周期からみると改修が必要な時期を迎えているものもありますが、現在の施設状況や他校の改修状況を踏まえ、建設年度の近い校舎については事業の効率化を勘案して各校舎を一体的に考えることとし、「001-1 校舎」から「001-5 校舎」までの校舎については令和 12（2030）年度、令和 13（2031）年度にかけて長寿命化改修を行うこととします。また、「003 屋内運動場」「004-1 給食室」「004-2 給食室」「010 校舎」「012-1 給食休憩室」は、令和 14（2032）年度、令和 15（2033）年度に、長寿命化改修を行うこととします。

なお、「010 校舎」については、C（広範囲に劣化）評価となっているとおり、外壁や屋根が薄く、室内環境が悪いという問題もあるため、費用対負担を考慮の上建替え等の検討も視野に入れることとします。

「011 校舎」「013 校舎」については、修繕周期に従い、建設後 20 年目に予防改修をそれぞれ行うこととします。

表 15 井田川小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
				階数			建築年度									条件(シナリオシート参照)			10年後										
通し番号	建物名	棟番号	構造	地上	地下	延床面積(㎡)	西暦	和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)	使用目標年数	長寿命化改修の実施築年	サイクル改修	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト(千円)
44	校舎	001-1	RC	3	-	2,137	1978	S53	47	B	B	B	B	A	78	80	40	20					長	長					474,414
45	校舎	001-2	RC	3	-	1,398	1979	S54	46	B	B	B	B	A	78	80	40	20					長	長					310,356
46	校舎	001-3	RC	3	-	557	1985	S60	40	B	B	B	A	A	81	80	40	20					長	長					112,514
47	校舎	001-4	RC	3	-	442	1988	S63	37	B	B	B	A	A	81	80	40	20					長	長					89,284
48	校舎	001-5	RC	3	-	579	1988	S63	37	B	B	B	B	A	78	80	40	20					長	長					128,538
49	屋内運動場	003	RC	1	-	725	1979	S54	46	B	B	B	A	B	78	80	40	20							長	長			159,500
50	給食室	004-1	RC	1	-	134	1979	S54	46	A	B	B	A	A	84	80	40	20							長	長			25,058
51	給食室	004-2	S	1	-	68	1993	H5	32	B	B	B	A	B	78	80	40	20							長	長			14,960
52	校舎	010	S	1	-	164	1992	H4	33	B	C	B	A	A	71	80	40	20							長	長			33,128
53	校舎	011	S	1	-	153	2007	H19	18	B	B	B	A	A	81	80	40	20		予									15,300
54	給食休憩室	012-1	S	1	-	13	1988	S63	37	B	B	A	A	A	91	80	40	20							長	長			2,106
55	給食室便所	012-2	S	1	-	7	2020	R2	5	A	A	A	A	A	100	80	40	20											0
56	校舎	013	RC	2	-	961	2012	H24	13	A	A	A	A	A	100	80	40	20							予				96,100
57	校舎	014	RC	1	-	386	2020	R2	5	A	A	A	A	A	100	80	40	20											0

計 1,461,258 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
(本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。)

凡例		
	劣化状況評価	A :概ね良好　C :広範囲に劣化 B :部分的に劣化　D :早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建 :新・改築　廃 :廃止　長 :長寿命化改修 予 :予防改修　部 :部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 16 井田川小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○亀山南小学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況は見られないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修又は予防改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

「001 校舎」から「010 校舎」までの建物については、長寿命化改修の対象となる建設後 40 年を経過し修繕周期から見ると改修が必要な時期を迎えていますが、建物の状態は良好であることと他校の改修状況を踏まえ、令和 14（2032）年度、令和 15（2033）年度に、長寿命化改修を行うこととします。

「013 校舎」については、建設後、約 25 年経過していますが、建物の状態が良好であることから、計画期間内の予防改修等は行わないこととします。

「014 校舎」については、建設後、約 20 年経過しており、ドアが閉まりにくいなどの問題が指摘されていることから、令和 8（2026）年度に予防改修行うこととします。

表 17 亀山南小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕･改修･改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕･改修･改築推奨計画										
				階数			建築年度									条件（シナリオシート参照）			10年後										
通し番号	建物名	棟番号	構造	地上	地下	延床面積（㎡）	西暦	和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	使用目標年数	長寿命化改修の実施築年	サイクル改修	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
58	校舎	001	RC	2	-	1,870	1981	S56	44	B	B	B	B	A	78	80	40	20							長	長			415,140
59	給食室	005	S	1	-	109	1981	S56	44	B	B	B	A	A	81	80	40	20							長	長			22,018
60	屋内運動場	006	RC	1	-	680	1981	S56	44	A	B	B	B	A	80	80	40	20							長	長			140,760
61	プール付属屋	007	S	1	-	75	1982	S57	43	B	B	B	A	B	78	80	40	20							長	長			16,500
62	校舎	010	S	1	-	40	1984	S59	41	B	B	B	A	A	81	80	40	20							長	長			8,080
63	校舎	013	S	1	-	180	2001	H13	24	B	B	B	A	A	81	80	40	20											0
64	校舎	014	S	1	-	41	2005	H17	20	B	B	B	A	A	81	80	40	20	予										4,100

計 606,598 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例		
	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新･改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 18 亀山南小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○関小学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況はみられないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修又は建替等を行いつつ、利用を継続するものとします。

「001-1 校舎」「001-2 校舎」については、建設後、約 45 年経過し、既に長寿命化改修の修繕周期は超えている状況です。しかしながら、出入口等に隙間がある、鍵が開閉しにくいなどの不具合はあるものの、躯体は良好な状態が保たれています。

「005 屋内運動場」についても経過年数や修繕周期は同様の状況です。内部仕上げと機械設備の項目でC（広範囲に劣化）評価となっているとおり、排煙窓の動作不良や窓ガラスのシールの剥落や外壁の劣化等も進んでおり、改修が必要な状況にあります。

このような状況から、この 3 つの建物については、建設年度が近いことと他校の改修状況も踏まえ、令和 12（2030）年度、令和 13（2031）年度に長寿命化改修を行うこととします。

「006 プール付属室」については、外壁の項目でD（早急に対応する必要がある）評価となっているとおり、外壁のクラックが非常に大きく危険であると判断されるため、利用状況等を踏まえ、改修等の方向性を決定することとします。

「007 校舎」については、予防改修が必要な時期を迎えていますが、状態も良好であることから計画期間内には予防改修等は行わないこととします。

表 19 関小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
				階数			建築年度									条件（シナリオシート参照）			10年後										
通し番号	建物名	棟番号	構造	地上	地下	延床面積（㎡）	西暦	和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	使用目標年数	長寿命化改修の実施築年	サイクル改修	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
65	校舎	001-1	RC	3	-	3,360	1979	S54	46	B	B	B	A	A	81	80	40	20					長	長					678,720
66	校舎	001-2	RC	3	-	644	1979	S54	46	B	B	B	A	A	81	80	40	20					長	長					130,088
67	屋内運動場	005	RC	2	-	1,050	1979	S54	46	B	B	C	A	C	61	80	40	20					長	長					231,000
68	プール付属屋	006	S	1	-	110	1980	S55	45	B	D	B	A	B	60	80	40	20	建	建									44,000
69	校舎	007	S	2	-	127	1997	H9	28	B	B	A	A	A	91	80	40	20											0

計 1,083,808 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例		
	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、全ての建物について、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 20 関小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○加太小学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況は見られないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

「001 校舎」については、建設後、約 50 年経過し、屋根・屋上と内部仕上の項目でC（広範囲に劣化）評価となっているとおり、屋上の防水シートが破損し雨漏りが多く見られるなど、問題が発生しています。

「002-1、002-2 屋内運動場」については、屋根・屋上と内部仕上の項目でC（広範囲に劣化）評価となっているとおり、山側内壁の剥落、山側外壁の汚れなどが見受けられ、改修の必要があります。

「010 給食配膳室」については、外壁と内部仕上の項目でC（広範囲に劣化）評価となっているとおり、校舎側内壁に多くのクラックがあり、強度の低下が懸念されます。

このような状況から、「007 校舎（便所）」を含め、校内の主要建物を一体的に令和 8（2026）年度、令和 9（2027）年度に長寿命化改修を行い、良好な状態に回復して利用を継続するものとします。

「011 校舎」については、平成 8（1996）年度建設であり、小規模の雨漏りが見られますが、建物の状態は良好であるため、予防改修等は行わず、雨漏り対策などの必要な改修を行った上で、利用を継続するものとします。

「013 プール便所」については良好な状態であるため、予防改修が必要な時期を迎えていますが、計画期間内の予防改修等は行わないこととします。

表 21 加太小学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数 地上	階数 地下	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	条件（シナリオシート参照） 使用目標年数	施築年	長寿命化改修のサイクル	10年後 2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
70	校舎	001	RC	2	-	1,498	1972	S47	53	C	B	C	A	B	62	80	40	20	長	長									149,600
71	屋内運動場	002-1	RC	2	-	680	1984	S59	41	B	C	C	A	B	55	80	40	20	長	長									149,600
72	屋内運動場	002-2	RC	2	-	200	1984	S59	41	B	B	B	A	A	81	80	40	20	長	長									40,400
73	校舎(便所)	007	RC	1	-	7	1992	H4	33	B	B	B	A	A	81	80	40	20	長	長									1,680
74	給食配膳室	010	S	1	-	25	1994	H6	31	B	C	C	A	A	58	80	40	20	長	長									6,000
75	校舎	011	S	2	-	325	1996	H8	29	B	B	B	A	A	81	80	40	20											0
76	プール便所	013	W	1	-	19	2000	H12	25	A	A	A	A	A	100	80	40	20											0

計 347,280 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例		
	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 22 加太小学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○亀山中学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況はみられないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修又は予防改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

「002 校舎」「003 校舎」「012 校舎」については、屋根・屋上や外壁等それぞれの校舎においてそれぞれの項目でC（広範囲に劣化）評価となっているとおり、雨漏りや壁のクラック、塗装の剥離など多くの改修が必要な点を抱えています。

また、「004 屋内運動場」は、校舎と同様にC（広範囲に劣化）評価が多くみられるとおり、雨漏りの発生や、生徒が日常通行する側の窓の防災性能が低いなど、改修が必要な点が多くみられます。

「023 学校事務局」「025 校舎」は躯体の問題はありませんが、木部となっている外壁やベランダ床などにカビなどの傷みや欠損がみられます。

このような状況を踏まえ、「023 学校事務局」「025 校舎」以外の建物については、長寿命化改修時期である 40 年を大きく超えているとともに、改修すべき点も多いことから、他校と比較しても最優先として令和 8（2026）年度、令和 9（2027）年度に長寿命化改修を行うこととします。

「023 学校事務局」「025 校舎」については、修繕周期に従い、それぞれ令和 11（2029）年度、令和 12（2030）年度に予防改修を行い、屋上・屋根、内外壁の改修、傷んでいる木部の改修、設備のメンテナンスを行い、良好な状態の維持を図ります。

表 23 亀山中学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数 地上	階数 地下	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	条件（シナリオシート参照） 使用目標年数	長寿命化改修の実施年	サイクル改修	10年後 2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
77	校舎	002	RC	3	-	958	1965	S40	60	C	B	C	A	A	65	80	40	20	長	長									193,516
78	校舎	003	RC	3	-	1,766	1960	S35	65	B	C	C	A	A	58	80	40	20	長	長									356,732
79	屋内運動場	004	S	1	-	1,200	1970	S45	55	C	C	B	A	C	61	80	40	20	長	長									264,000
80	校舎	012	RC	3	-	658	1982	S57	43	C	C	B	A	A	68	80	40	20	長	長									132,916
81	学校事務局	023	RC	2	-	715	2009	H21	16	A	A	A	A	A	100	80	40	20				予							71,500
82	校舎	025	RC	2	-	2,249	2010	H22	15	A	B	A	A	A	93	80	40	20					予						224,900
83	校舎	026	RC	3	-	1,044	1966	S41	59	B	B	B	A	A	81	80	40	20	長	長									210,888

計 1,454,452 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例		
	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、建設後の年数が 40 年を超える建物は、耐用年数の 80 年まで利用を継続し、建替えを行うものとします。

その中で、「002 校舎」「003 校舎」「012 校舎」「026 校舎」「004 屋内運動場」の 5 つの建物が令和 24（2042）年度頃から順次建替時期を迎えることとなります。建替えについては、その時点における建物の老朽化状況にもよりますが、それぞれ建築年度が近いことから一体的な改築を行うこととします。また、「023 学校事務局」「025 校舎」についても、その時点で 80 年を経過していませんが、敷地内での改修計画を考えると一体的に実施、または、全校的な移転を視野に入れつつ検討することが望ましいと判断できます。

よって、「023 学校事務局」「025 校舎」については、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。しかしながら、上記のとおり、他の建物の状況によっては、80 年を待たず改修等を行うことが想定されます。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 24 亀山中学校の今後（40 年間）の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○中部中学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況はみられないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修又は予防改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

「023 相談室」以外の建物は、建設後、約 35 年～約 50 年程度経過した建物であり、屋根・屋上や外壁等それぞれの項目でC（広範囲に劣化）評価となっているとおり、壁面のクラックや屋上の冠水、鉄製手すりの錆、塗装の剥がれなど、多くの不具合がみられます。建設後 40 年を経過しているものは早期の改修が望ましいと考えられますが、敷地内建物の配置上、改修年度をある程度揃えて実施することが望ましいと考えられます。

このような状況から、事業時期の統一と学校内での事業時期の調整、他の小中学校との事業優先性を勘案し、令和 10（2028）年度、令和 11（2029）年度に第一期、令和 12（2030）年度、令和 13（2031）年度に第二期事業を実施するものとします。

なお、「015 階段室」については、手すり、ポリカーボネート屋根の状態が悪いことと、第二期事業の作業スペース確保の観点から第一期事業で改修を行うこととしています。

「023 相談室」については、平成 20（2008）年度に建設されており、修繕周期に従い、令和 10（2028）年度に予防改修を行うこととします。

表 25 中部中学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
				階数			建築年度									条件(シナリオシート参照)			10年後										
通し番号	建物名	棟番号	構造	地上	地下	延床面積（㎡）	西暦	和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	使用目標年数	長寿命化改修の実施築年	サイクル改修	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
84	校舎	001-1	RC	3	-	1,393	1975	S50	50	B	B	C	A	A	68	80	40	20			長	長							281,386
85	校舎	001-2	RC	3	-	795	1983	S58	42	B	B	B	A	A	81	80	40	20			長	長							160,590
86	校舎	001-3	RC	3	-	723	1991	H3	34	B	C	B	A	A	71	80	40	20			長	長							146,046
87	校舎	002-1	RC	3	-	2,263	1975	S50	50	C	B	C	A	A	65	80	40	20					長	長					457,126
88	校舎	002-2	RC	2	-	358	1986	S61	39	B	B	B	A	A	81	80	40	20					長	長					72,316
89	校舎	002-3	RC	1	-	135	1992	H4	33	C	B	C	A	A	65	80	40	20					長	長					27,270
90	校舎	003	S	1	-	322	1975	S50	50	B	B	B	A	A	81	80	40	20			長	長							65,044
91	屋内運動場	009	RC	1	-	1,197	1977	S52	48	C	C	C	A	B	52	80	40	20			長	長							263,340
92	校舎	014	S	1	-	204	1988	S63	37	B	B	B	A	A	81	80	40	20			長	長							41,208
93	階段室	015	S	1	-	23	1986	S61	39	B	A	C	A	A	76	80	40	20			長	長							4,071
94	相談室	023	S	1	-	12	2008	H20	17	B	B	A	A	A	91	80	40	20			予								1,200

計 1,519,597 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例		
	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 26 中部中学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○関中学校の個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況はみられないため、建物の築年数及び劣化状況調査結果に基づき、長寿命化改修、予防改修又は部分改修を行いつつ、利用を継続するものとします。

「001 校舎」については、屋根・屋上の項目でD（早急に対応する必要がある）評価となっていることをはじめ、屋根にかなりの傷みがあるとともに、外壁も塗装の剥落などの問題があり、早急に改修することが必要であることから、計画期間前に緊急案件として学校の使用状況等を勘案しつつ、必要な対応を行うこととします。

「012 校舎」については、内部仕上の項目でD（早急に対応する必要がある）評価となっているとおり、内壁に大きなクラックがあるとともに、壁面に亀甲状のクラックが生じており、重大な問題となっている可能性が否定できない状況となっています。よって、計画期間前に状況調査を行い、必要な改修等を行うこととします。調査の結果にもよりますが、大規模改修等を実施しない場合は、令和 15（2033）年度、令和 16（2034）年度に長寿命化改修を行うこととします。

「014 屋内運動場」については、比較的小規模と考えられる雨漏りが見受けられるため、修繕周期に従い、建設後 40 年となる令和 17（2035）年度、令和 18（2036)年度に長寿命化改修を行うものとします。

「018 校舎」については、修繕周期に従い、建設後 20 年となる令和 12（2030）年に予防保全を行うものとしますが、外壁木部に苔や腐朽等が発生し始めているため、洗浄や塗装などのメンテナンスは必要に応じ実施していくこととします。

表 27 関中学校の劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
				階数			建築年度									条件（シナリオシート参照）			10年後										
通し番号	建物名	棟番号	構造	地上	地下	延床面積（㎡）	西暦	和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	使用目標年数	長寿命化改修の実施築年	サイクル改修	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
95	校舎	001	RC	1	-	112	1987	S62	38	D	C	B	A	A	66	80	40	20		長	長								22,624
96	校舎	012	RC	3	-	1,275	1992	H4	33	B	C	D	A	A	47	80	40	20	部							長	長		258,550
97	屋内運動場	014	RC	2	-	1,229	1995	H7	30	B	B	B	A	A	81	80	40	20										長	124,129
98	校舎	018	W	2	-	2,629	2010	H22	15	A	B	A	A	A	93	80	40	20					予						262,900

計 668,203 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

なお、児童数減少等により空き教室が発生した場合には、その段階において学校施設としての有効活用とともに、総合計画等上位計画の方向性を勘案しつつ、必要に応じて他の公共施設等としての有効活用も同時に検討するものとします。

表 28 関中学校の今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | |

○関学校給食センターの個別計画

■ 計画期間(令和 8(2026)年度～令和 17(2035)年度)内の計画

計画期間最終年度となる令和 17（2035）年度までに築年数が耐用年数と設定した 80 年を迎える建物はなく、また劣化状況評価で建替え・改築が必要となる状況はみられません。

予防改修の必要な時期を迎えていますが、屋上、外壁の状態は良好であり、樋が詰まる、調理室内部のグレーチングや給排水管の錆程度の小規模な問題のみであるため、これら個別の修繕を行うにとどめ、予防改修は行わないものとします。

表 29 関学校給食センターの劣化状況評価及び今後(直近 10 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

建物基本情報										劣化状況評価						算定条件			今後の修繕・改修・改築推奨計画										
通し番号	建物名	棟番号	構造	階数 地上	階数 地下	延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	築年数	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度（100点満点）	条件（シナリオシート参照） 使用目標年数	長寿命化改修の実施年	サイクル改修	10年後 2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	10年間のコスト（千円）
99	給食センター	003-1	S	2	-	445	2004	H16	21	B	B	B	A	A	81	80	40	20											0

計 0 千円

注：築年数は計画年度 2026 年度の前年度である 2025 年度時点としています。
（本冊表 3-11 等に示す築年数とは異なります。）

凡例	劣化状況評価	A：概ね良好　C：広範囲に劣化 B：部分的に劣化　D：早急に対応する必要がある
	修繕・改修・改築計画の区部	建：新・改築　廃：廃止　長：長寿命化改修 予：予防改修　部：部位改修

■ 11 年目以降の計画案

長期的には、修繕周期に従い、長寿命化改修又は予防改修を行い、耐用年数である約 80 年間にわたり良好な状態を維持しつつ利用の継続を目指します。

また、給食システム等学校給食に関しての変更があった際には、必要に応じてそれに見合った施設の改善を行うものとします。

表 30 関学校給食センターの今後(40 年間)の修繕・改修・改築推奨計画

| 建物基本情報 | | | | | | | | | | 今後の修繕・改修・改築推奨計画 | | | | | | | | | | |

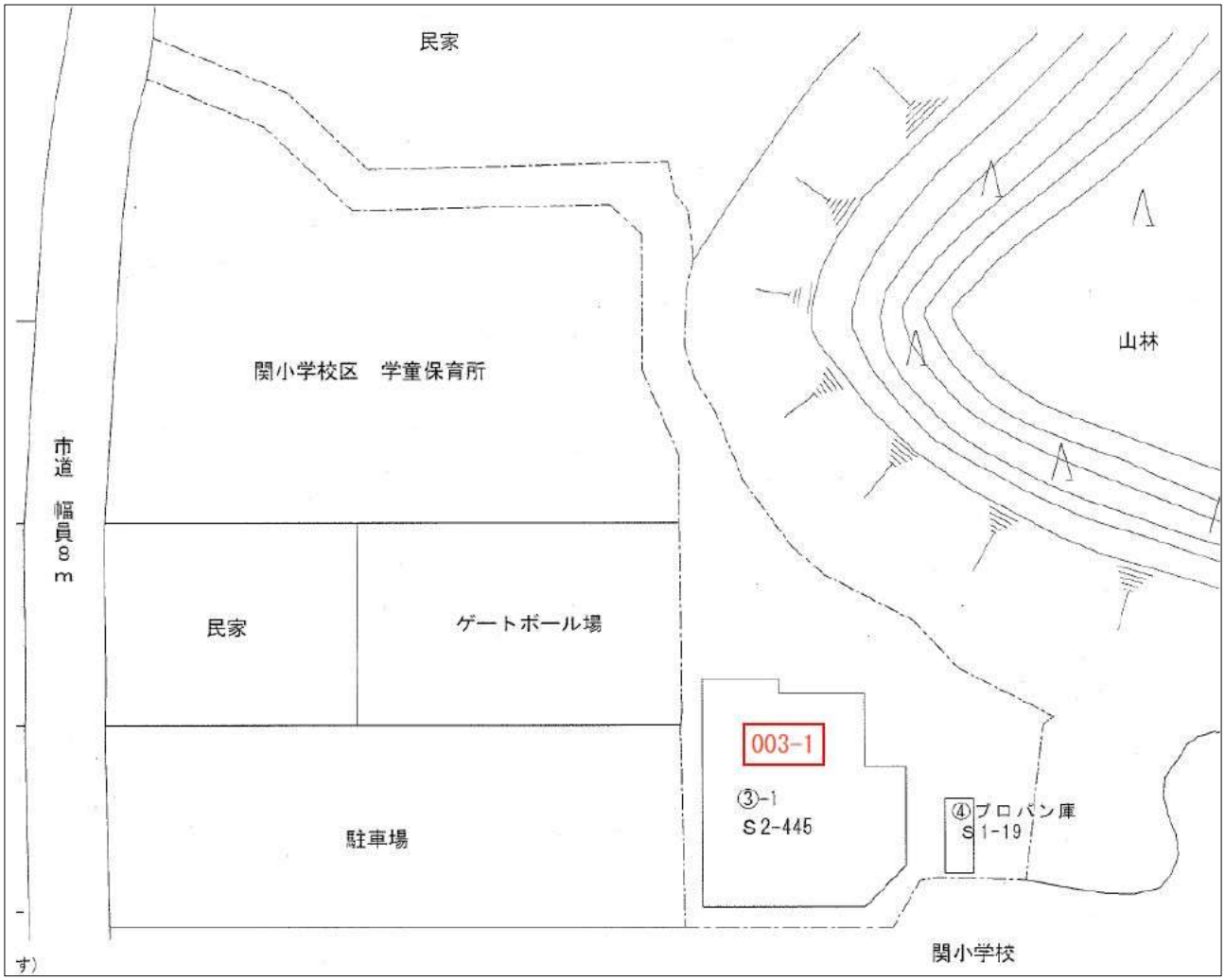

図 15　関学校給食センターの校舎等配置図